

100分の1秒の差に挑む

トリノ冬季五輪に学ぶ



今年の冬は寒いと思っていたが、2月になってから比較的暖かいように思う。3月になればバーゲンセールになるから、個人消費の冬物は既に終わりになっているからどうでもよいかな・・・。

1. 努力だけでは無理か？

トリノはどこにあるのでしょうか？世界地図を広げてみる。イタリアの北西部でアルプスの南側山麓にある。オリンピックで騒がないと私のような者にはご縁のない古都である。知らなくても別段私の人生にどうということもないから深入りしなくてまあいいか。

ところで、100分の1秒の差で勝ったとか負けたとか、メダルが取れなかったとか騒がしいが、私は少しさめた見方をしている。私達は日々そのような競争社会の上で生活しているのだ。例えば入学試験にしてみても1点の差で線を引き入学かどうかが決まっている。入学後の人生が全て順風満帆ということにもならないだろう。反面、不合格だった人の人生が生涯駄目ということでもなく、要は人生やってみないとわからないのである。

芥川龍之介が書いていたと記憶しているのだが、1000歩の道のりも999歩までは凡人は努力次第で到達できるが、あと1歩が天才かどうかの分かれ目だというような話だった。確かにそういうものらしい。人、それぞれタイプがあり、頭の構造も違うから一つの世界で駄目でも、別の分野では優れた天才肌の人もある。そういうように見れば人の世は面白いのである。

ただ、苦言を言わせてもらえばトリノ五輪でマスコミは騒ぎすぎだと思う。少し秀でた若者がいれば追い掛け回してテレビなどに取り上げる。試合前の精神統一して集中力を高めるべき時に生活ベースが乱される。試合

が終わって敗れた者をインタビューしたりでもう飽き飽きしだした。テレビに出たがりやの人もあるようだが、困ったことだと思う。やはり、勝負の前は緊張感と集中力がなければ、何事も成就しないと思う。オリンピックは世界の實力者が集まるからレベルが高いのだ。井の中の蛙にならずに、視野を広げること。応援する人、報道する人も節度を保って本人の力が最大限に氣力が充実して實力以上に発揮できるように環境整備をしてあげることが大切だろう。

15秒コマーシャルというのがある。短いと思うが、その気になれば結構長い。また、100字以内に要旨をまとめて述べよというような作文もある。凝縮したエッセンスのみをいかに表現するかである。オリンピックも4年間の努力を一瞬のうちに集中的に要領よく凝縮して表現することが大切なのである。道は違えど共通項はある。私たちの生活・活動などは、このような道の繰り返しのように思えてならないが、どうでしょうか。目に見えるものの最たるものは競馬や100m競争で鼻の差、胸の差が勝敗の分かれ目で、金か銀かに分かれるのである。

2. 財政の破綻を回避

県及びどこの市町村も財源不足で予算編成に苦労しているようである。岡山県しかり、岡山市、倉敷市も同様である。人件費など固定経費がかなりの割合を占めて、自由になるお金が少ないため硬直化しているのである。しかし、仕事をしないことは許されないので、削減できる財源を考え出す。一方、景気が良くなってきたので自然増収が見込めるなど、プラス面もある。しかし、生活保護費や義務教育費等の支援金が増大するため、全体から見れば大きなバランスシートには影響しないということになる。結局のところ、無駄遣いを探し出して、削れるところを削るということになる。

私が主張していた臨時職員は原則不採用にしたらどうかと言っていたのだが、岡山市はそういうことになった。さらに、強調しているのは、三役や議長用の公用車はハイヤーに切り替えることだ。ハイヤーを必要な台数だけ、毎日借り上げる。その方が断然経費削減になる。運転手は配置転換すればよいのであって、労働組合の意見を聞いていたら何もできない。岡山市長に公用車のことを話したら乗り気だったから、実行してくれるだろうと期待している。とにかく役所が目に見える形で何かをやるべきである。それが改革につながる。例えば、倉敷市財政を支えてきた水島工業団地の

三菱自動車の車を公用車として採用し利用するなど、倉敷市は実際に実行されているようだからよろしい。県庁だって三菱の車を利用すべきである。それが仁義というものだと思う。とにかく必死で財源確保と出費の削減に努力すべきだろう。

私から見れば役所にはまだまだかなり隠れ財源があり、自由になるお金があるような気がしてならない。ところで、公共事業の削減が毎年度続いているが、もうそろそろ限界に来ているのではと考える。必要以上に減らすと道路の整備・修復ももままならないというような弊害が生じるのである。もちろん談合などの悪しき弊害はなくさないといけないのだが、そのことと公共事業を減らし続けることは別問題である。

3. 「中国」の次は「インド」にシフト

日本は中国へ資本進出して長いが、そろそろ次のターゲットを考えねばならない。人口は中国が最も多いが、インドが次で10億以上の国民がいる。貧富の差が極端だが、それでも中間層以上が半分と仮定しても5億の民がいるのだからすごい。誇り高い国民だから、尊敬の気持ちで接すればうまくいくはず。親日派が多く日本語教育もさかんで流暢な日本語を話す若者も多い。もちろん英語は通じる。IT産業・自動車・製薬などの分野に実力が発揮できるようだ。人件費も安い。市場としてはポテンシャル（潜在的能力）はある。さて、先日岡山県知事を団長にインドに親善訪問したのですが、そのときの紀行文（別紙1）を書きました。参考までに掲載します。

また、今回の訪問団を組織し、インドとの交流を前々から関与されているのが（社）岡山県国際経済交流協会（OIBA）です。そこの事務局長の高橋義雄さんが色々なところへコラムなどを書かれている（中国銀行マンです）。高橋さんが書かれたインドのマハーラーシュトラ州訪問に関する経緯や感想文があります。本人の承諾も得ています。インドへの詳しい事情も分かり易く書かれていますから、別紙2として載せて頂きますので、ご一読下さい。何かの参考になると思います。

4. いろいろと書いてきましたが2月もあと10日程

年度末で多忙な時期ですが、新年度の4月もすぐです。とにかく世の中が明るい方向に進んでもらいたいものです。経済は回復基調にありますから、地方まで好景気の影響が及ぶ日もそう遠くないものと思っています。

次回の時は楽しいゆかいな話がたくさん書けるような世の中になって欲

しい。また、私の身辺もそうありがたいものです。では、またお会いできる時まで。サヨウナラ。

H18.2.16 馬場勉 記

(別紙1)

インド友好訪問の経緯

馬場 勉 記

岡山後樂園を模し、縮小した公園を、インドのプーネ市へ作庭したのを機に、開園式の祝賀会へ参加するために県知事を初め県議や経済界から総勢約 80 人からなる親善の訪問団がシンガポール経由でムンバイ（旧ボンベイ）及びプーネ市を訪れ、在ムンバイ日本国総領事や自動車工場、大学キャンパス、工業団地などを視察した。行動の詳細は山陽新聞の同行記者やテレビ局のカメラマンなどが既に報道しているところだからそれらに任せるとして、私が見たまま・聞いたまま・感じたままを若干の脚色を加えて記述してみることにしました。

1. 暑い国インドなのに“なぜ”病気？

インフルエンザや風邪気味・せきがとまらないなど、帰国後体調の不調に悩まされた人がいた。私も気管支炎になりせきに困った。インフラが不十分なため埃っぽい街であり、生活環境が悪いため独特の臭いが漂い、バスの中にまで侵入してくる場所もあった。また、車等の交通は自分勝手だが運転技術は高度である。日本人は恐ろしくて互角に運転することは無理であろう。排気ガスもすごいから喉をやられるようだ。水については嚴重な注意が事前になされていたから下痢のたぐいはなかったようだが、マスクが必携という注意喚起が必要かもしれない。

2. インド人気質の一端

インド人は誇り高い国民だそうです。相手を尊重して対応することが大切でしょう。喋りだすとよく話す人が多いようです。国際会議で演説を始めるとやめさせるのが一苦労ということらしい。確かに祝賀会で挨拶をはじめたお偉いさんは、原稿無しで身振り手振りで一席ぶちだすと話しに陶醉するらしい。聴衆は文句も言わず聞き入り拍手をするからさすがだ。日本のような野次は飛ばずに聞いている。言葉が通じずじっと我慢している我々は忍の一字で我慢をして、早く終わって欲しいと思っていた。弁舌が

爽やかで記憶力のいい人が多いのも事実のようである。二桁の九九とかITや英語さらには日本語を使う若い人がいるのも現実である。ただ、カーズト制度という身分による仕事の世襲制は法的にはなくなっても根強く残っているらしい。教育は日本のような義務ではないから、お金のない貧困層は頭がよくても教育を受けていないため就職が不利だということもある。中階級以上階層で教育を受けている人は競争社会を生きぬくことに真剣。日本語を学んで月給のよい日本企業などに就職したいと真剣に学んでいるのが現実である。それに反して日本の若者はハングリー精神に欠けているのか、あまり真剣に努力するという気持ちが伝わってこないのは残念だが、ホリエモン氏に代表されるようにお金が全てだと思っている人は多いようだ。

3. イギリスの植民地からの脱却は可能か

戦前はイギリス（大英帝国）の植民地であった。1600年に東インド会社という教科書に出てくるような貿易会社ができてアジア進出の拠点となった。日本はかなり以前の1894年から日本国公館が設置されたそうだから、古くから国交があったのだが、現在日本との輸出入量は多くない。10億人以上の国民がいて、中国に次ぐ世界2位の人口規模の大国である。アジアの一員として中国からインドへとシフトするのだろう。岡山県はインドとの交流を目指そうとしているわけだが、急激な進展は期待できないだろう。あわてず焦らず気長にいきましょう。必ず時が来る。親日派で人柄もよく、貧困層の人達も争い事はあまりしない穏健な人達のようなのである。かつてのガンジーさんの非暴力による抵抗（レジスタンス）に表れているように。いかに貧しくても一生懸命に生きているという意気込みの雰囲気伝わってくる。

日本人は失敗すれば絶望して自殺する人が多くニートとかいう、働く意欲を持たない若者が目立つがそういうような社会現象はインドでは見られないのではと思うが……。貧しい層の人たちは「ぼろは着てても心は錦……」という心意気ではないかと思われる。現地のパトカーはおもちゃのようなものだから、悪質な犯罪には対応できる代物とはいえないが、それで間に合っているのだから世の中は結構平和なのである。

10億の民の半分近くが下層民、半分以上が中級以上の国民という階層区分のようである。最上級が1割としても日本の人口に匹敵する1億人になるからスケールの大きさが想像できる。無限のバイタリティーが潜んでいるように思える国である。悠久の時間の中でゆったりと生きてきた誇り高き国

民である。国民所得は低いが高騰はすごいから、いずれは高度成長するであろう。世界遺産に指定されている立派なチャトラパティ・シバジ・ターミナス駅という駅舎から文化レベルはすこぶる高いと判断される。

4. IT産業等に優れている国力

IT・バイオ・製薬などに優れている。プーネ大学は30万人以上の学生がいる。日本語教育も熱心。お釈迦様の生まれた国で、日本からもクラシック哲学（宗教）の学生交換も行われている。主流の宗教はやはりヒンズー教である。

工場団地を見たが、立派なものですべてインド人による開発ということだから、建築能力は相当のものがあると思って間違いない。ただ、貧富の差とかインフラが進んでいないとかで、社会資本はいかにも見劣りのする点が目立つ。インド国内には才能や能力のある安い労働力がいくらでもある。日本やアメリカへの進出や就職を心待ちにしているふしが見受けられる。日本は安く使用するというのではなくアジアの友人として使用したらよいのではないかと思うが・・・。

5. 落差に呆然（天国と地獄）

どこの国にも貧富の差はあるが、インドの落差は初めて見聞する者にとっては強烈であろう。豪華なホテルがある反面、スラム街といえるような街並みが続く。そういう状態が原因で暴動が起こるかといえばそういうことはないだろう。長い歴史が国民をして所与の状態が当然の社会の姿と思わせているのであって、生まれが悪いので今度生まれる時はいい生まれをしないと願うのである。

日本の鎌倉時代の巻物や掛け軸などに天国と地獄の絵が描かれている。人を救うための新興宗教が派生したりしたのだが、そういう世界を彷彿とさせるものがある。現実に地獄界の世界があるのだと認識させる現世の姿でもある。

母子が物乞いをしているが、それが仕事である。バスを叩いてお金をねだる。粗末な家を住みかとする。日本の古典に見るように日本人の精神構造には、無常を嘆いて世捨て人になるというような哲学的な雰囲気漂っている面がある。現代版の世捨て人には自由があり食べ物は豊富でホームレスの人が糖尿病になる。幸せな国である。しかし、インドにおけるホームレスはそんな生易しいものではないが、生きるということには一生懸命

のようで日本人は彼らから元気がもらえるから不思議だ。

6. 酒はあまり飲まない国民性

上層民と下層民は比較的ビールなどをラム酒のたぐいを結構飲むらしいが、中間層は飲まない国民のようである。日本人のように誰もがやたらに飲むというようなものではないらしい。お金があるから飲む人と、やけっぱちになって絶望のあまり飲む人とに分かれるようだ。

また、外国ではホテル内に得体の知れない女性がうろうろしているのだが、そういう人はいない。風紀は乱れていない国柄といえる。本場の食事は日本人の口にはあまり合わないように思う。しかし日本人好みに合わせているため日本ではインド料理が人気を博しているようだが……。要は日本人の嗜好に合わせているのだ。

男性用の便器が高い。座高の低い日本人はさし下駄か踏み台が欲しいのだが、国際水準に日本人が達していないのだから、日本人の体格がよくなって不自由なく用を足すことができるようになるべきであろう。インドのホテルではイギリスの流れを汲んでいるらしく、風呂に水抜きのないホテルがあり、うっかり疲れて寝込んだら水が溢れて困ることになる。一定量の湯が入ったら止まるのは日本の家庭風呂かラブホテルくらいだろう。日本人の発明能力と節約精神の表れであるが、外国ではそんな便利な設備はないようだ。

外国に行くときに生水を飲まないようにといわれるが、日本人の体が弱いということも確かにあるが、硬水あるいは軟水などで水に慣れていないため体がついていけないので下痢をしたりする。しかし、現地の水に慣れれば大丈夫という事だ。慣れるまで滞在しないから安全な水を飲んでいる方が利口であるということだろうか。また、左手は不浄なものだから右手で食べるという事など、国によって習慣が違う。こういうことを知ることでも大切である。日本の中にいるだけであれば、別段困ることもないし、それが当たり前だと思って暮らせるのだが、世界は広いのであり、自分が正しいと思うことでもそうでないことはいくらでもある。

例えば、小泉総理が日本のやり方は正しい、間違っていないと力説しても立場や国情が違い、生活環境が違えばそうともいえないのである。だから、頭をやわらかくして柔軟な対応をしないと国際間では相手にされなくなる。総理大臣が自分ひとりだけならそれでもよいだろうが、日本国民の

生命・財産などを守ってもらわねばならないということからすれば、そう簡単でもないからよろしくお願いしたい。

7. 「日本人である」ことを意識するとき

私が日本国民であると再認識するときはパスポートの呈示を求められたときである。日本国民をよろしく頼むとパスポートには日本国外務大臣が出入国する国に対して通路故障なく旅行させ、かつ、必要な保護・扶助を与えて欲しいと要請しているのである。パスポートがなければ日本人の証明はできない。誰も保護してくれない。やはり、日本人として生を受けて、教育を受けさせてもらい、日本で生活し生きていけることはすばらしいことであると思う。教育水準も高く、生存が保証されている。日本人は過保護で純粋培養されているため免疫に弱いのではないかと思う。もっとたくましい国民になるべき努力がいるのではないかと考えるが、いかがでしょうか。

(別紙 2)

「インド・マハーラーシュトラ州訪問記」

(社)岡山県国際経済交流協会 (OIBA) 理事 高橋 義雄

①インド・マハーラーシュトラ州訪問

▼去る 1 月 17 日～23 日に、石井正弘岡山県知事 (OIBA 名誉会長) を団長として、インド・ムンバイ市及びプーネ市を含む、マハーラーシュトラ州 (州都ムンバイ市) を訪問した。参加者は、小枝英勲岡山県議会議長、岡山県議会議員、永島旭 OIBA 会長 (岡山経済同友会代表幹事、中国銀行頭取)、岡崎彬 OIBA 副会長 (岡山商工会議所会頭、岡山瓦斯社長)、片山義久 OIBA 常務理事 (岡山外語学院会長)、難波正義 OIBA 理事 ((株) アステア代表取締役会長) や民間団体等 80 名である。

②プーネ市について

▼平成 15 年 10 月以来、岡山が交流を深めているプーネ市は、インド第 1 の商業都市であるムンバイ (旧ボンベイ、人口 1, 200 万人) から南東 200 km のデカン高原上にある。標高 700 m で、ムンバイの避暑地として古くから栄えてきた。人口 250 万人、プーネ大学等多くの大学がある学術都市として有名だが、現在では多数の IT 産業、自動車の製造工

場や部品工場があり、バイオ産業も発展している。松下、矢崎等日系企業も進出しており、多数の日本語学校もあって、日本語検定試験受験者も多い。

③岡山とプーネとの交流のはじまり

▼インド・プーネとの交流は平成15年10月に、岡山県とOIBAがプーネ市の一行を歓迎してから始まった。OIBAはプーネ市一行と岡山経済界との意見交換会を中国銀行会議室で開催し、交流を深めた。

▼その後、後楽園を案内したところ、日本式の美しい庭園に感銘し、一行からこの日本庭園をプーネ市に造りたいとの要望が出されて、岡山の下電造園土木(株)がボランティアとして築庭の指導をすることとなった。

④プーネ岡山友好公園の建設

▼平成16年8月31日～9月6日迄プーネ市を訪問した岡山県、OIBA、下電造園土木等はプーネ市長の臨席の下、起工式を行った。プーネ市が費用を負担し、同地の土木業者が建設を進めた。

▼荒れ地の整備から始めたが、工事はなかなか進展せず、起工式から数か月経ても風景はなんら変わらなかった。下電造園土木は何度も現地を訪問、築庭の指導を行う。完成予定日が近づくと、プーネ市の業者も流石に本腰を入れ、最後は3日3晩、約1000人が徹夜して完成させた由である。

▼平成17年12月末、公園は漸く完成した。広さは約4ヘクタールで岡山の後楽園の1/3。マンゴーやブーゲンビリアの木を、またお茶の木の代わりにコーヒーの木を植えるなど、インドの気候にあわせて、植栽も工夫を凝らしている。築山や泉水、灯籠もある本格的なインド初の日本庭園である。

⑤公園開園式典に出席(1月19日(木))

▼友好公園開園式典当日は、30度を超える熱い日である。幸い、会場は大きなテントで覆われていたが、参加者は裸土の上に並んだ折り畳み椅子に座り、開会を待つ。冷房装置はなく、じわりと汗が滲んでくる。

▼壇上にはマハーラーシュトラ州知事、プーネ市長以下地元の多数の名士や岡山県知事、岡山県議会議長が並ぶ。会場には1000人を超す地元の人達も出席、座れない人もいて超満員であった。岡山県訪問団は歓迎のターバンを頭に巻かれる。やがて、式典が開始され、まずプーネ市と岡山県との友好交流協定が締結された。次いで、州知事や石井知事の挨拶が行われた後、地元の名士が相次いで登壇、公園設置に対する謝礼と意義及び祝辞を述べる。地元の名士は持ち時間にはお構いなしに長々と演説を行う。演説は地元のマラティー語で行われるので日本人には理解できない。岡山県訪問団は一様に演説が早く終わらないかと思いつながら聞いている。式典の終了予定時間ははるかに超える。

▼最後に岡山から琴、笙等を持参した黒住教の演奏者が雅楽を演奏し、吉備楽と神前の舞を披露した。地元の人達は雅楽の演奏に興味を示すとともに、演奏者の古式の装束と荘重な舞に感動していた。

▼このような本格的な日本庭園はインド国内では初めてであり、プーネ市民に大きな評判を呼んでいる。「開園後、平日には2000人、2月5日の日曜日には5000人が入園した。プーネの新聞は開園式典だけでなく、その後も公園を大きく報道している。プーネの人達は岡山の人に非常に感謝しています」と、AFJ（プーネ日本友好協会、プーネ在）会長サミール・カレ氏がメールで伝えてくれた。

⑥経済セミナーと商談会を開催（1月21日（土））

▼岡山県は経済セミナーを開催し、岡山の経済環境を説明、OIBA、岡山県産業振興財団、ジェットロ、岡山の企業関係者が事業内容を説明し、その後、プーネの業者と商談を行った。地元の業者は売り込みに大変熱心で、OIBAには面談の申し込みが多く、永島OIBA会長（中銀頭取）や私が応接した。IT関係、環境、製造、販売等多くの商談が行われたが、その一部を紹介します。①医学博士が面会を求め、ガンを早期に発見できる画期的な医療方法を日本に紹介したい。②ガスを製造しているが、日本の自動車メーカーや自動車部品メーカーと提携したい、製品を納入したい。③日本の従業員をプーネに送り込んで欲しい。ITと英語の教育をしますという人材教育センター。④プラスチック製品メーカーが日本企業と提携したいと希望していた。⑤日本の企業からソフトウェアの制作の受注をしたい等々であった。

⑦その他の視察や交流

▼プーネ大学の視察（1月20日（金））

同大学は1949年設立の州立大学、46学部もあり、学生数は38万5千人。日本語学科、バイオ、社会科学、ナノ化学、物理、化学等が有名である。同大学は日本の大学とも提携しており、コラスカール副総長は「今後、日本の大学との提携を拡大したい」と抱負を述べた。

▼オートクラスターの定礎式に出席（1月20日（金））

プーネ市の隣で西南の位置にあるピンプリ・チンチウッド市でオートクラスター（自動車関連産業の研究開発及び展示用施設）の定礎式が行われた。インドの農業大臣等と岡山県一行が出席し、岡山県と同市が友好交流協定を締結した。

▼タタ・モーターズ（自動車製造工場）視察（1月20日（金））

インドで第1のタタ・モーターズを視察。タタ・グループはインドの最大手で、多くの産業を擁しており、タタ・モーターズもその1つである。この工場だけで年産30万台を製造しており、多くの設備や電力使用に当たって環境に配慮していることも伺われた。

▼ITパーク及びIT企業の視察（1月20日（金））

プーネ市に建設中の「マガルパッタ・シティ」を視察。「マガルパッタ・シティ」は総事業費約200億ルピー（約500億円）で、2008年に完成予定。120エーカー（約49万平方m）の土地にオフィス、公園、住居、教育及びレクリエーション施設を擁する。住居は12000戸、ハイレベルの教育施設とトップレベルの病院、インド最大のショッピングセンターも建設予定。光ファイバー回線を使用しており、電力の供給も安定している。とにかく、インドで最もレベルの高い職住近接の新都市である。立ち並ぶ建物の壁面はガラスに覆われていて美しい。東京や大阪の近代的建物にも劣らない。道路は全面舗道で清潔な街であり、プーネ市内とは別世界の感がある。その一角のパトニ・コンピューター・システムズを視察。同社は1978年設立、インド国内だけでなく、米国、日本等8カ国に事務所と2000社の顧客を擁し、ソフトの製作とメンテナンスを行っている。2004年の売上高は205億ドル、従業員5000人、輸出主導で急速に業容を拡大している。ソフトウェアの

▼制作ルームはセキュリティも厳しく、清潔感が溢れている。従業員には高い職業意識とインドのIT産業をリードしているという誇りがあると感じた。同都市の開発会社は、「プーネ市は教育水準が高い。中流階級の多さと豊富な人材に着目して、プーネ市に新都市を建設することを決定した」と誇らしげに語る。

⑧ 今後のインドとの経済交流

▼インドは日本の約9倍という広い国土と10億人の人口を擁し、若年労働力に富んでいる。多くの言語があるため、共通語は英語となっている。英語を駆使する人達は海外へ働きに出かける。特に米国でのIT産業の発展はインド人の活躍なしでは考えられない。米国のIT産業が不振に陥ると、故国に帰郷してIT産業を立ち上げ、米国からソフトウェア制作を受注している。こうしたインドの発展と消費市場の拡大をみて、各国の企業が進出、日系企業の進出も急増しており、2005年4月で298社に達している。そのうちムンバイには37社、プーネには13社が進出済みである。

▼今、話題のBRICs中でも、今後インドが最も発展するだろうと目され、世界の政治家、経済人が訪印している。石井知事は、そのインドのプーネ等と岡山県が日本の都道府県の中でもいち早く交流協定が締結できたことを喜んでいる。

OIBAはAFJと、絶えず情報交換を行っている。今回のマハーラーシュトラー州訪問に際してもAFJには大変なお世話を頂いた。今後、インドとのビジネスをお考の方は当協会にご連絡下さい。その他、海外とのお取引、貿易等、何でもご相談に乗りますので、お気軽にお電話下さい。(TEL 086-214-5001)

(平成18年2月10日作成)



事務所・岡山市大供3丁目1-18

瀬戸内海放送KSB会館4F

TEL 086(222)6591 FAX 086(223)5839

不動産鑑定士

馬場 勉

(新) 坂口社長へ絶大なエールを送りたい

チボリ公園を中心市街地活性化の原動力へ



「私も変る」と民主党小沢一郎党首は公言した。有言実行をしているようだ。自民党の一番怖い相手はかつての盟友のイチローさん。天下分け目の戦いの日が近い。政権奪取は実際に起こると思う。

1. デンマークの本家チボリと縁切りを

倉敷チボリは本家のチボリ社に年間500万円の契約金（ロイヤリティーとして）を支払っている。お金だけならまだしも、色々注文をつけてくるらしい。例えば、強制わいせつ事件によりチボリの名誉が傷ついたというようないいかたらしい。いっそのこと思い切って契約条項により損害賠償はある程度覚悟の上で解約（再契約しない）したらどうかと思う。私は1年半程前に岡山経済同友会の北欧視察旅行団の一員としてデンマークのチボリを訪れたことがある。そのときの印象では、さほどびっくりするほど立派な公園とは思わなかった。一見してチャイナタウンかと思った。中国風のレストランなどが多く、ゴチャゴチャしていたので倉敷のチボリの方が優れていると思った。日本とデンマークは風土が相違しているため、夜間公園は根づかないのかもしれない。昔の本場のチボリ公園はよかったそうであるが、度々リニューアルしているとの説明だから、その時々々の運営方針思想に基づいて内容に変化がもたらされているらしい。ただ、そんなに多くを我々が学ぶものがあるようなものではないような気がしたことだけは確かである。

坂口さんを投入してやるからには環境整備も必要だ。坂口さんが全力を発揮できて思う存分暴れることができるようにすべきだろう。県がああだ

こうだと枠をはめてその上でやってほしいと言われても困ると思う。県の出資が多いのは事実だが、県の税金から出資しているのだから、知事らは身銭を一銭もお金を出していないにもかかわらず、我が物顔でいろいろ優越的立場を利用して発言し注文をつけてくると嫌がらせに聞こえてくる。当初の頃は岡山県の幹部だった人が社長だったが、使途不明金が相当にあるらしく資産を食い潰した面もあり、オンブズマンによる訴訟も提起された経緯もある。いずれにせよ話題を提供し続けてきた。最終の切り札である坂口さんに白羽の矢が当たったのである。私は坂口さんとは面識がある。経営手腕もありバイタリティーがあって俗にいう“できる人”である。人徳もある。もし仮に坂口さんで駄目だったらチボリ公園は廃園して土地をクラブウに返そう。万策尽きて誰がやってもできないということになる。そうなれば一番困るのはクラブウさんではないかな。広大な土地の活用は難しいと思う。土地利用の名案は浮かぶかも知れないが、なかなか、実現は困難だろう。地代の値下げ交渉に難色を示しているようだが、あんまり欲張ると虻蜂取らずで損をするようになるかも。何ごとも程々が大切。

私は5年間（チボリ公園が軌道に乗るまで）は地代を無償（タダ）にしてもよいと思っている。いずれにせよチボリを坂口さんが如何様に料理してみせてくれるか楽しみである。最後は廃園という道を選択するのもベターであると思う。岡山県人の悪い癖は何もしない人や、利用したことのない人がひとかどの理屈を捏ね回すことにある。例えば岡山市民病院をどうするかでも同様でどこに病院があるのか知らない人が市民病院について色々主張する。またチボリ公園でも入園したことのない人がいろいろと言家を述べる。こういうところが岡山県人の難しいところである。逆に言えば大変勉強になる。全国的にも小難しい理屈っぽいことで有名な県であるから公務員にとっては緊張するところであるらしい。県庁の担当者は机上の話は活発にするのだが、公園内をすみずみまで歩いてみるとか、門前で一日中人の動きを観察するとかして「百聞は一見にしかず」ということわざではないが、実態把握に努めることだ。調査しているというのならもっとまじな将来像が描けるのでは……。

私のような不動産鑑定士がする最初のイロハは現地確認と状況判断である。また、最も重要なことは美観地区とチボリ公園とが相互に連携を深めることが大切。三越デパートのあとに天満屋が入店することになれば、南

北軸がつながって、一大商圈が形成される。県と市の関係はもっと密接になって事業において融合する必要があるだろう。倉敷市にとっては立派な観光資源であるのに活用できていないきらいがあった。倉敷商工会議所で観光部門を取り扱う責任者であったのが、坂口さんだからその当たりのことは十分に認識されていることでしょう。さらに、チボリ公園の事業運営についても一工夫されるでしょう。チボリ公園に夢があるから遊びに行くのであって楽しみが見いだせなければ、再度行く気にはならないだろう。公務員ではない、商人の坂口さんが経営者としての立場から新鮮な発想に基づいて再生させ胸が躍る新生チボリ公園を樹立してほしいと楽しみに願っています。駄目だから廃園にするということになりませんようお願いしています。

2. 自分の立場を考えた振る舞いを

「法に触れないから、とやかく言われる筋合いはない」と金儲けに走れば商売のやり方が汚いと思われる。すると人が集まってこなくなる。こういう人のことを「人徳」がないという。日銀の福井俊彦総裁は、1,000万円の元手が7年近くの間には倍以上の2,473万円になった。人が汗水流してもうけたお金であれば文句は言わぬが、ライブドアのホリエモンと同じく逮捕された村上世彰氏の村上ファンドに資本参加してファンドで儲かったお金は約2.5倍になった。1,000万円を銀行に預けても年間8,000円（現時点における税引き前）しか利益がつかない。従来からの日銀が行っているゼロ金利政策で預金者泣かせの時代において自分だけ儲ければよいということらしい。問題は最高責任者は秘密を保持し、かつ「君子危うきに近寄らず」ではないが、人からとかく詮索されないようにしておくことが大切なのだ。そうでなければ俗に言う金に汚い奴だという評価を受けるからである。地位利用であり、情報の垂れ流しをしているのではないかと思われるし、実務的情報を色々な筋に流していると推測される。私などでも仕事柄、よい情報の話があっても倫理上や職業柄みずから自分のために行動することはない。また、他に情報を流すこともない。偉い人（総裁）になったのは頭がよくて仕事ができるだけでなく色々な筋とのコネがあって情報を提供する便利屋になったからかもしれない。なぜなら堅物でいっさいしゃべらないとなるとその筋の人たちからは人気なくなるから出世できないということか。与党は小泉総理はじめ福井総裁の行為は法に触れない、

あるいは、日銀の内規に触れないので問題ないとかぼうが本当にそれで子供の教育上もよいのだろうか。世間様を甘く見てなめてはいけません。総理の任命責任も生じるから、ただちに日銀総裁をクビだとは言えないらしいがもっと人間としては守らなければならない道徳的本質を捉えた議論をしてほしいと考える。いずれにせよ、法に触れなければ何をやっても問題ないという風潮がはびこって来ているのは嘆かわしい。公になり逃げ切れなくなったから返せばよいのだろうというような発想の物の言い方をされると、はたして日本はこれで大丈夫かと考える。勝ち組や負け組、格差社会の拡大など小泉政権になってから特に目立ち始めた現象だが、それをよしとする自民党の受け入れ態勢はどうかしているのではないかと考える。厳しい自己規制を要求される偉い人は問題がある行為はやってはいけないのである。しっかりけじめをつけなければならないと思うのだが、引き際の悪い出处進退をわきまえていない人だと思ひ残念だ。

3. 東京一極集中が加速

東京一極集中がどんどん進んでいるように感じられる。権力と経済力が集中することが一極集中の重要な要因をなしている。市町村合併はいつてみれば一極集中の地方版を創造するものである。それにいたった理由は色々あるだろうが、主に市町村の台所事情による経済的な行き詰まりと人口減少が進行してジリ貧になるため単独市町村で地方行政をやっていくのが限界になったという経緯が合併を加速した。翻って岡山は幸いにも人口増加の傾向にあり、インフラは最高に整備されているから、県をリーダーに市町村が一丸となり経済力をつける方策を練ることが大切だ。岡山は特に学園都市になることを重要視してみてもどうか。少子化の時代になるが特色を生かした学校づくりが進めば大丈夫。学校を誘致できれば交通の要衝を生かすことができる。反面、真庭郡の新庄村などの田舎は、田舎に徹して田舎を売り物にすれば生き残れる。都会の人をひきつける何かを柱にすれば、リピーターも多くなり田舎なりに独立して生き残れる。地域の特色を特化するのも田舎（地方）の生き残る手段である。そうだとすれば、同じような発想で地方都市の岡山が生き残る方策はどうあるべきかを考えることができる。岡山県のインフラの整備はほぼ完了している。人材教育はよい方だ。どこにいくにも便利だ。ということは外から来てもらうためには住むのにいいところだということである。従って、何か光るものがあれば

人は集まる。定住させるためには仕事や学校に就学してもらうことが常套手段としては肝要だ。すなわち日帰りされたりショートステイだけではまずいのだ。滞在する安定型のまちづくりであり住み着いてもらうことだ。やはり学生を多く流入させて住んでもらうことだ。それも街中にある。その他、岡山に人口が集中し活力を与えてくれるような方策が見つければよいのだが、いい知恵が多くは浮かばない。ただ、「観光」に力を入れて数時間でも滞在してもらえればお金は地元に落ちることは確かである。いろいろな手法に訴えていくしかないだろうが、人口増加は街が栄える条件の最大の要件である。政令指定都市に岡山市がなるのは時間の問題である。人口が増加することはよいことである反面、負担も伴う。しかし、やはり人口が増大するためには人口流入がないと活気が増大しない。経済力をつけるには何をしておきまちの魅力をアップをして住みたくなるまち、住んでよかったというまちにしなくてはならない。岡山より名前は倉敷のほうが有名だから倉敷市はもっとよいやり方・方法があると思われるのだが、しっかりお互い倉敷市も頑張りましょう。岡山市と都市間競争を行わなければならないとともに隣り合わせだから協調する必要もある。岡山市と倉敷市は広域連携の新ビジョンを目指した経済産業省の「広域市町村圏産業振興ビジョン調査モデル事業」として選定された。将来は、岡山市と倉敷市は大合併するであろうから、岡山県南都市として広島市にも負けない地方都市になり道州制ができる暁には中四国の中心になれる風格をそなえなくてはならない。そのときのためにも欲を出さずにまず経済力をつけること、経済力のあるところには権力すなわち州都も派生的に生まれることになると考える。必ずそういう日が来ることを願っている。

4. 食文化の地域性を考える

食べることは人間として最も興味をそそられることである。市内のレストランや食堂もそれぞれの味を出しているから、お客様は自分の好みで行きつけのところをつくっている。味覚は人によって異なるから、人それぞれ好みの食べ物屋さんがあるため基本的に食べ物さんは共倒れせずになりたっているらしい。日本のように魚などを生で食べる食生活の国は少数派のようで、大抵は火を入れたりして加工している。今春、全国の大学の先生が中心になった（社）都市住宅学会のまちづくり研究班がタイのバンコクのスラム街を現地調査のため勉強に行くことになったので同行した。

タイにおけるスラム街はそれほどびっくりする程悪くはない。日本でも悪い環境のところはあるから、さほど問題にするほどではなくまずまずである。特に悪いと思われるのはインドだと思う。中国の次はインドへ進出ということが行政の命題のようであるが、日本人は安い労働賃のところで現地人を使って仕事をさせて、賃金が高くなればもっと安いところを探してシフトするという傾向がみられる。安さを求めることは逆に公害を撒き散らし、かつ、人を人として扱わないなど、合理的な経済活動のことしか念頭にないようだから、そのうちしっぺ返しが必ず生じるだろう。公害など外国だからどうでもよいと思っても地球はつながっている。空とか海に国境は一応あっても一体化しているためせき止めることはできず大気汚染などで、日本に影響を及ぼすのである。インドは日本からは遠すぎるくらいがあり、中国のようにはいかないのではないのでしょうか。

ところで、食事に関してですが私は日本食が好きなのです。残念ながら本場で食べるインドやタイ・韓国料理は口にあまり合わずに困る。スパイスが効きすぎている。タイに行ったときに大学の先生が顔を真っ赤にして汗をかきながら料理がうまいうまいと言って食べるのを見て人様々だと思った。私はタイの香辛料のきいた食事は体が受け付けないのだが、日本人でもおいしいとってよるこんで食べる人がいるのも事実であるから、好きな人嫌いな人などバランスがとれていてよるしい。食に関する文化は奥が深いと思った。いい悪いの問題ではなく好き好きのため人生いろいろだと妙に感心したのである。

岡山は鯖が特産になっていて私はサワラ大使の一員になっている。岡山商工会議所の赤木さんが懸命に宣伝に情熱を燃やしている。ついに高じてサワラ神社をつくると意気込んでいる。正気かと思うがまじめに本気である。私は子供の頃、バラ寿司の上おきの具になっている鯖の酢漬けだけをつまみ食いして母親にしかられたのが未だに思い出として記憶に残っている。しかし、昨今は鯖料理としてバラ寿司というような食べ方だけではなく、西洋料理とか色々料理方法を考えて工夫をこらしているが、やはり生の鯖の酢漬けがよいと考える。私の外国旅行の乏しい体験では極東ロシアの食事はおいしかった。生の魚の料理もあったが特に野菜・果物類がよかった。再度行くとして、どこか一箇所だけ選ぶとなるとウラジオストックとか樺太あたりが食のリピーター地域としては期待され目立つ存在であると考えられる。皆さんはいかががでしょうか？

5. 女難の相

堅い話ばかり書いてすみませんでした。少しバカ話を書いてみます。

手相・人相の易者に東京へ行ったとき、面白半分で見てもらいましたら、女難の相があるから注意をしたほうがよろしいとのご請託でした。女難の相とは何ぞやと聞いたところ、あんたは人がよくて女性にやさしいところがあるから、女性に頼りにされる可能性があるのも、その点気をつけられたらよいとのことだった。そこで女性遍歴に詳しい友人に尋ねたところ曰く、女性にモテる条件は①やさしさ、②まめなこと、③お金、とのこと、お金などさほど重要な点ではないとのこと。女性を餌にたかるヒモのような男は若い時ばかりかと思っていたら年をとっても女性にたかる人はたかるらしく、性格は変らないらしい。まず、やさしい人柄で女性の面倒みがいよいことが重要なファクターらしい。最後に多少の食事代等がだせるようであればモテるそうです。昨今は、女性に経済力がついたため金銭的な面より、精神的な心の余裕を持つ男に魅力を感じるのだそうです。私のようにモテない男としてはいまさら心と性格を改造するのも至難の技がいるため、ため息がでますねー。ある社会経験豊かな女性熟女曰く、女難の相があるということは喜ぶことなのよ。「難」といえば困るではないかと問うたら、男子と生まれてこのかた長い間女性から声も掛けられず女性関係で“すいたほれた”の話がない人生を送る人がいかに多いことか、女性のことので気をつけよといわれるようになれば男冥利につきるから喜ぶことなのだと、のたまわりました。そういうものですかね。それでは易者の言葉を信じて人生を楽しみますか。バカ話もいい加減にせー。それもそうですね。こういうたわいのない話も一服の清涼剤です。堪忍してね……。それではまたお会いするときまでお元気で、サヨウナラ。

H18.6.20 馬場勉 記



事務所・岡山市大供3丁目1-18

瀬戸内海放送KSB会館4F

TEL 086 (222) 6591 FAX 086 (223) 5839